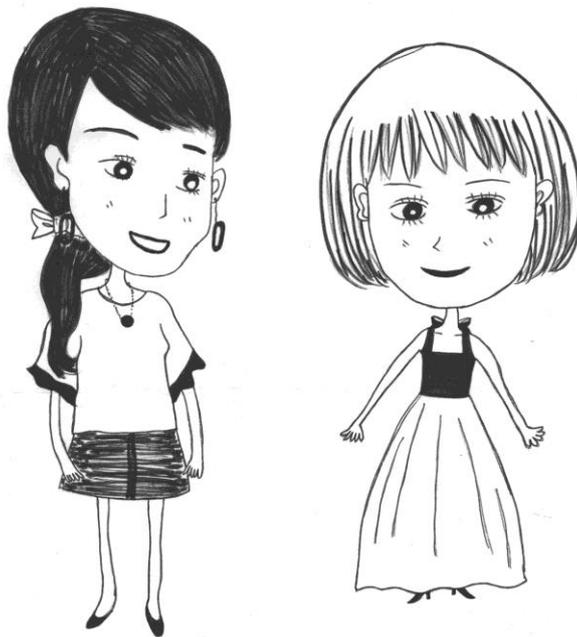


ピアノ講師1年生のためのはんなり流☆ピアノの教え方

【特典】

よくあるお悩みQ&A



スカラー

■はじめに

この章では、スカラーが新米講師のころに悩んでいたこと、また読者の皆さんからの質問で多かったものを選んでみました。

今の自分に必要な箇所から読み進めてもらえたらうれしいです(*'ω'*)

■ 目次

■はじめに	2
■目次	3
■指の形が上手くできません.....	4
第1関節が凹んでしまう	4
指の腹でベタッと弾いてしまう	5
手首を上下させて弾いてしまう	6
親指がどんどん鍵盤から離れてしまう	7
手首がだらんと下がってしまう	8
<指先に力をつけるトレーニング>.....	9
■1曲につき何回弾かせるべきか?	10
■音がプツプツ切れてしまう場合	11
■先生の言うことを全く聞かない生徒	12
■練習をまったくしてこない生徒.....	13
■レッスンの予習・復習はどうしている?.....	14
■親は子どもの練習に付き合うべき?	15
■規約	16

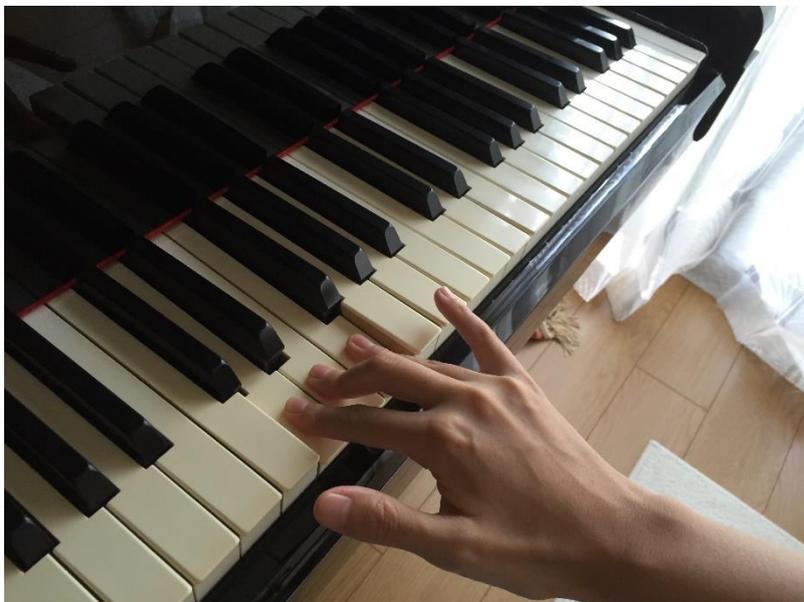
■指の形が上手くできません

Q：「まだまだ指の形が上手くできません。クマの手、卵を持っているように・・・、などと伝えていますが、手首を上下させて弾いたり、指の腹でベタッと弾いたりします。どういう風に教えたら良いですか？」

A：指の形の問題はなかなか厄介な問題で、ほぼ全員のピアノ講師が一度は悩んだことがある悩みだと思います。ここではスカラーが経験したことや読者さんから質問があった事例を紹介いたしますね (*^-^*)

第1関節が凹んでしまう

手の形が良くないパターンでよくあるのがこれです。「第1関節が凹んでしまう」パターン。第1関節が凹むってこんな感じです。



なんで第1関節が凹むかというと、**指先に力がないからなんです。**

つまり、まだ指の筋力が弱い子どもならではの悩みなんです（大人の方やったら、指1本

で手が支えられるので、第1関節は凹みにくいです)。

言い方としては、子どもの指をさわって、「指先のぷくぷくしている部分で弾くんだよ」と伝えます。または、「爪を隠して弾こうね」や、「指のつま先で弾くんだよ」とか言うとわかりやすいようです。

また、指先を鍛えるトレーニングもやっておきましょう（※p9で紹介）

指の腹でベタッと弾いてしまう

これも子どもによくあるのですが、「指の腹でベタッと弾いてしまう理由」パターン。これは、弾いている鍵盤が重たいか、もしくは指先に力がない証拠です。



指の腹全体で弾いた方が弾きやすいですからね。子どもは知らず知らずのうちに弾きやすい弾き方をしています。でもそうすると、速い曲なんかを弾いたときに、手がバタバタしてしまって、スピードをつけて弾くことはできなくなります。

なのでそういう場合も、先ほど同様、「指先のぷくぷくしている部分で弾くんだよ」、「爪を隠して弾こうね」、「指のつま先で弾くんだよ」などで伝えてあげましょう。

またこの段階では、小さな音でも良いのできれいな指の形で弾くことが大事です。成長とと

【特典】よくあるお悩みQ&A

もに力が付いてきたら自然としっかりした音が鳴るようになります。筋力がない時期に無理に音を出すよりも、正しい手の形を優先して教えてあげると良いと思います(*^-^*)

この場合も、先ほど同様に、指先に鍛えるトレーニングをやりましょう（※p9で紹介）

手首を上下させて弾いてしまう

これも子どもによくありますね。「手首を上下させて弾いてしまう」パターン。



理由は、指先の力が弱いために、（指ではなくて）手首で鍵盤を押してしまうのです。

あとは、テンポ感がまだ養っていないので、手首でリズムをとっている可能性もあります。

こういう時は、「手首でリズムを取りながら弾いちゃダメだよ。手首は上下しないよ」と伝えたと、正しい弾き方と悪い弾き方見せて、その違いを本人にわかってもらうのが良いと思います(*^-^*)

親指がどんどん鍵盤から離れてしまう

これはスカラーの教室の生徒さんの事例です。「親指がどんどん鍵盤から離れてしまう」パターン。



写真は「ミ」を弾いている状態です。親指が宙に浮いていますよね。これは完全に親指に意識が向いていない証拠です。

なので、子どもへの伝え方は、「親指を弾いていないときも、親指は鍵盤から離れたらダメなんだよ」と言います。それでも離れてしまう場合は、親指を弾く鍵盤にシールを貼って、「このシールはずっと隠してね。見えたら負けだよ」と、ゲーム感覚でやると楽しんでやってくれます。

こんな感じで↓↓ ※親指の箇所には赤いシールを貼っています。



手首がだらーんと下がってしまう

これは小さいお子さんに多いかもしれません。「手首がだらーんと下がってしまう」パターン。



最初のレッスンのときに「手首がピアノについてはいけない」ことを言います。手首が下がるということは、おそらく手首がピアノの鍵盤の前の板のところについてしまうということなので、「ピアノのところに手首はつけちゃダメだよ。そこには触らないように弾こうね」と伝えましょう。手首はいつも「ピンとあげておく」ことを伝えれば大丈夫です!(^^)!

ざっと挙げるとこんな感じでしょうか。

いろいろと書きましたが、実際にはなかなか思った通りにはいかないものです(^^;) 小さな音でも良いので、きれいな指で弾けたらたくさんほめてあげましょう。

では次は、指先に力をつけるトレーニングをご紹介しますね！

<指先に力をつけるトレーニング>

第1関節が凹んだり、指の腹で弾いてしまうのは、指先に力が入っていない証拠です。

なので、指先に力をつけるトレーニングをやりましょう！

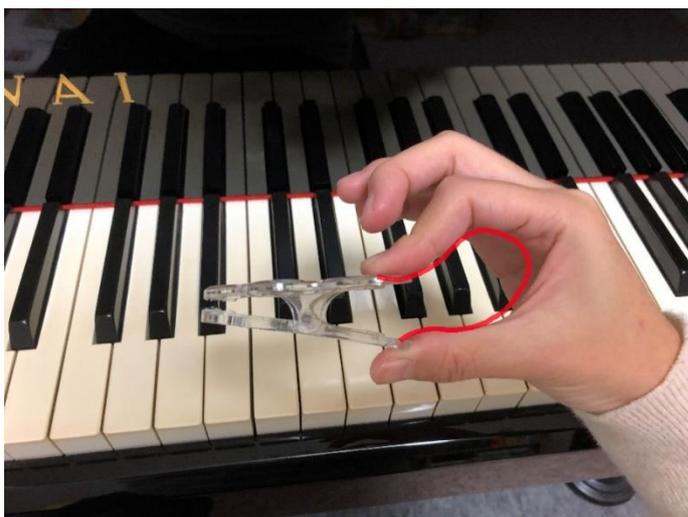
家にあるもので簡単にできるのですが、**クリップ**を使います。

やり方は、親指と人差し指でクリップをつかんだり離したりします（あまり硬すぎるものは、逆に指が反るので向かないです）。このときに、第1関節がしっかり曲がっていることを確認してあげてください（写真のように人差し指が**丸くなるように**持ってください）。

地味ですがこういう地道なトレーニングが一番の近道なのです。



下の写真は間違ったやり方です。人差し指の第一関節が**やや反り気味**になっています。こういう形にならないように注意して教えてあげてください。



指の筋力が弱く感じたら、これを**左手 10回、右手 10回**、それを毎日続けてみましょう！

■1曲につき何回弾かせるべきか？

Q：「レッスン中にその曲を何回弾かせるべきなのかがわかりません」

A：スカラーも同じような経験があります。当時、生徒さんに1回弾いてもらって、間違っただ音やリズムがなかったとき、このままあっさり合格させても良いものか悩んだことがありました。正直、それ以上何を教えたら良いのかわかっていなかったんですよね。

でも今ならこういう風に考えます。たとえ1回が上手くいったとしても、音を読みながら弾いたのか？リズムがわかって弾いたのか？ということまではわからないんです。子どもって先生の演奏をそのままマネして弾いている可能性もあるので、1回弾いてもらっただけではわからないことが多いのです。

なので、スカラーは1曲につき、最低3回弾いてもらっています。

- 1 回目はドレミで歌いながら弾く
- 2 回目はリズムを言いながら弾く
- 3 回目は歌詞を言いながら弾く

こんな感じです。これができるということはしっかり楽譜を見ながら弾けているということになります。こんな風にあの手この手を使ってピアノを弾いてもらう引き出しを作っていきましょう！

■音がプツプツ切れてしまう場合

Q：「ピアノを弾く以前のこともかもしれませんが、生徒さんでドレミとつなげて弾くことができずに、「ドッレツミッ」と1音ずつ弾いてしまうんです。音をつなげて弾くように教えるにはどうしたら良いですか？」

A：これは初めてピアノを弾く生徒さんのあるあるですね(^-^;)。スカラーの生徒さんでもほぼ全員が「ドッレツミッ」と弾いていました。この衝撃は今でも覚えています。でも、それは音をつなげて弾くことを知らないだけで、方法を教えてあげたらすぐにきれいに弾くことができます。

やり方ですが、「次の音を弾くまで最初の音はつなげたままだよ〜。次の音を弾いたときに指を離すんだよ」と言ってお手本を見せます。かなりスローモーションで！！

で、それでもよくわからない子どもには、OKの弾き方とNGの弾き方を聞き比べてもらいます。

- ①音がぶつ切りになった弾き方をする（子どものマネをする）
- ②きれいに音がつながった弾き方をする（お手本を見せる）

だいたい聞き比べたらほとんどの子どもが「あっ、音切れてる」って気づいてくれます。

あとは、こんな言い方で伝えるときもあります。「食べ物のリンゴってあるよね。リンゴって話すとき、「リッ、ンツ、ゴツ」って言うかな？ ちゃんとなめらかに「リンゴ」って言えるよね。それと同じだよ」と言います。この言い方は大人の生徒さんにも有効だったりします。

一度試してみてくださいませ。

■先生の言うことを全く聞かない生徒

Q：「4歳の年少のAちゃん。「ピアノを弾いてみよう！」「リズムをたたいてみよう！」と言っても全然話を聞いてくれず、やってくれるまでに数十分かかるんです。やっとやってくれたと思ったら、「先生は見てて！あっち行って！」と、教えようとするのが嫌がります。雑談も多く、話してくれるのはうれしいけれど、ほとんどレッスンになりません」

A：小さいお子さんのレッスンは本当に大変ですね・・・(;´▽`)

先生の話を聞かない、教えようとするのが嫌がる、これはあなたを「先生」と思っていない可能性があります（スカラーにも経験ありです！）。なので、まずは先生と生徒の関係をはっきりさせることが大事かなと思います。

なので、言い方としては「1人で好きなように弾くならピアノを習いに来なくてもいいよね。ここはピアノ教室だよ。〇〇ちゃんはピアノを習いに来ているんだから、この時間は、きちんと先生のお話を聞かないといけないよ」と、もうここはピシッと言いましょう。

毎回ニコニコ先生をやっていると、「あっ、この先生は何言っても怒らなさそう」と感じて、どンドンわがままになって先生が振り回されてしまいます。なので、上手にできたときは褒める！良くないことをしたら真剣に怒る！**怒る勇気を持ちましょう！**

あと、スカラーの場合なのですが、基本生徒さんとはタメ口です。なので、普段は「本を出してねー」と優しく言いますが、このちょっとこの子、気が緩んできたかな？と思うような場合は、「カバンから本を出してください」とか「片付けてください」などと敬語で話したりもします。そうすると子どももピシッとした態度を取ってくれるようになります。

先生と生徒が何でも話し合えるという関係が理想ではあるのですが、あまり子どもと友だち感覚になりすぎないことも大事なかなと思っています。

■練習をまったくしてこない生徒

Q：「小学5年生の男の子。塾と学校の宿題が忙しく、お家でのピアノの練習がまったくできない状態です。でもピアノが好きやから週1でレッスンに通っている。練習ができていないので全然テキストが進まない。親からお月謝をいただいているのにこのままで良いのだろうか・・・」

A：練習をしてこない生徒さんは少なからずいます。だいたい全体の2割ぐらいの割合でしょうか。スカラーの生徒さんもまさしくこのような生徒さんがいました。指導が未熟だったスカラーは、全然練習をしてこないことに怒ってしまったり、練習をしないならやめてほしいとも思ったぐらいでした。でもそんな風に思っていたころ、生徒のお母さんから、「この子にとってピアノは、塾や学校の息抜きになっているようです」と教えてくれました。

それから私は、**本人が楽しいならそれが一番。家で練習できないのであれば、教室で弾けるようにしてあげるレッスン**をすれば良いという考え方に変えたんです。

例えば、水泳や体操教室ですと、教室で練習してできるように教えますよね。その考えと同じです。もちろん進み具合は格段に遅くなります。よく練習してくる生徒さんが1年で終えたことが、3年ぐらいかかったりもしてしまいます。それでも、その生徒さんは、「学校のリコーダーの楽譜が読めるようになった！」とか、「知っている曲が弾けるようになってうれしい！」と話してくれるのです。

どんどん上達してくれることが先生にとってはうれしいのですが、中にはピアノを弾くこと自体が楽しいと思う子どもたちがいるんです。

「音符が読める。リズムがわかる」、難しい曲は弾けないけれど、簡単でゆっくりな曲なら弾ける、ぐらいにはしてあげることはできます！

■レッスンの予習・復習はどうしている？

Q:「ピアノ教室を開講して数カ月経ち、少しずつ生徒さんが来てくれるようになりました。そこで、自分のためにも、生徒さんのためにも、レッスンでやったことを書き留めておこうかと思うのですが、どんな風にかいたら良いですか？」

A: 生徒さんの記録を付けるというのはとっても良いことだと思います！スカラーも生徒さんの記録ノートを作って、予習と復習を書いていた。ノートでもルーズリーフでも、自分がわかりやすい形で書き留めていけば良いと思います。

ポイントなのは、**どこまで教えたのかをしっかりとメモしておく**のが大事だと思います。つまり、**その日に何を教えたのか？**ということをしっかり把握しておくのです。

これをやっておくと、次回のレッスンで同じことを説明したり、どこかの箇所を飛ばして教えてしまった、ということを防ぐことができます。また宿題を出したのなら、何の宿題を出したのかもチェックしておきましょう！

最初は1人のレッスン記録を書くのにかなりの時間を費やしてしまうかもしれませんが、生徒さんのことを思い出しながらかれこれ考える時間はとても尊いです。生徒さんに寄り添えるようなレッスンができるようにがんばりましょう(*^-^*)

■親は子どもの練習に付き合うべき？

Q：「子どものレッスンを見学して、先生のアドバイスをメモしてそれを噛み砕いて子どもに教えています。でもあまりそれをやると親から教えてもらえると思ってレッスンに集中しなくなるかなあって思い始めました。先生のお立場からは保護者はどのようなスタンスで子どもに接したら良いと思われませんか？」

A：ここだけの話ですが、お家でピアノを見てもらっていない生徒さんより、見てもらっている生徒さんの方が成長具合が早いことは確かなんです。でも、この方がおっしゃっているように、最初はそれで良いけれど、ずっと親に教えてもらってばかりいると自分で考えることをやめてしまうんです。なので、**少しずつ自分で考えて弾かすような声かけ**をされるのが一番良いと思うんです。

例えば、レッスンが終わってから子どもさんに、「今日のレッスンで先生は何て言ってた？」とか、「お家で練習することわかった？」とか聞いたりして、自分で答えを出せるようにしてあげたら良いと思います。

そうやって、小さいお子さんであっても、少しずつ自分の力で考えていけば、次第に親御さんに頼らずとも、1人でお練習ができるようになると思うのです。

子どもさんにすぐに答えを渡さない、考えさせるクセをつけさせていってもらえたらと思います。

上記の質問を保護者さんから聞かれたときの参考になればと思います。

以上で、「よくあるお悩みQ&A」は終わりです。

最後まで読んで下さりありがとうございます m()m

■ 規約

このレポートの利用に際しては、以下の条件を遵守してください。

このレポートに含まれる一切の内容に関する著作権は、レポート作成者に帰属し、日本の著作権法や国際条約などで保護されています。

著作権法上、認められた場合を除き、著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を、複製、転載、販売、その他の二次利用行為を行うことを禁じます。

これに違反する行為を行った場合には、関係法令に基づき、民事、刑事を問わず法的責任を負うことがあります。

レポート作成者は、このレポートの内容の正確性、安全性、有用性等について、一切の保証を与えるものではありません。また、このレポートに含まれる情報及び内容の利用によって、直接・間接的に生じた損害について一切の責任を負わないものとします。

このレポートの使用に当たっては、以上にご同意いただいた上、ご自身の責任のもとご活用いただきますようお願いいたします。

◆作成者 スカラー

◆特定商取引法に基づく表記 <http://loopline.shop-pro.jp/?mode=sk>